

ジオロジー鉄道の旅 後免編 (その3)

南 寿宏

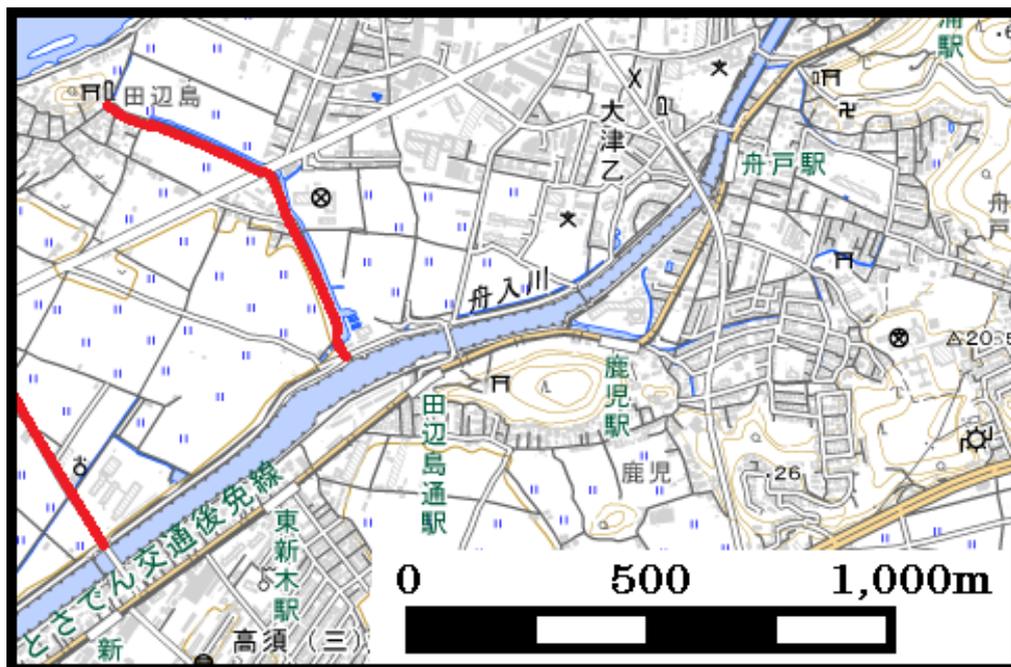
8 TE16 田辺島通 (たべしまどおり)

鹿兒神社最寄りの電停。路面電車の軌道が鳥居と狛犬のすぐ前を通る。京阪電車京津線の関蟬丸神社を彷彿させるが、こちらの方が開けている分、写真撮影は便利で、電車と鳥居のツーショットが狙える。なお、鳥居は土佐電鉄の寄進である。

電停の名前は、浦戸湾7島のひとつ、田辺島から。田辺島までは1km、徒歩20分の道のりだが、ほぼ全線、中堤を通るので、時間があれば、訪れたい。中堤(下地図の赤線)は、前会報55号で触れたように、浦戸湾干拓の歴史の生き証人なので、大事にしたい。

田辺島は標高20m、山上には、隼人神社が建つ。田辺島には戦国時代、田辺島城が築かれ、長宗我部氏の家臣福留氏が城主を務めた。

天正14年(1587年)、長宗我部元親は秀吉の命を受け、九州に出陣した。田辺島城主福留隼人は豊後戸次川の合戦で島津氏と戦い、討ち死にした。この合戦では、長宗我部の若き当主、長宗我部信親も討たれている。信親享年22歳。元親の四男で、後に大坂の陣で活躍した盛親は、当時13歳であった。



田辺島通電停から田辺島へ
赤線は中堤
国土地理院HPに南寿宏加筆

鹿兒神社は、電停から東に100m、小山の急階段を上がり、標高20mほどのところに位置する。鹿兒は水主とも書き、水運に従事する者を意味する。社殿は全国的にも珍しく、北向きである。これは、北に船着場があったからと思われる。

船着場は、紀貫之が惜別の宴を行ったところで、現在は駐車場となっている。

ご神木は榊木（なぎ）の木。ナギが凧（なぎ）に通じることからである。凧とは、朝と夕方の2回、海沿いの風が止む現象で、それと同音の榊木の木が船乗りの守り神とされた。

安芸市下山の伊尾木不動は、ご神木榊木の木が国道の上下線に挟まれることで有名である。（伊尾木不動は、高知東部交通伊尾木不動バス停車すぐ。）



安芸市下山 伊尾木不動

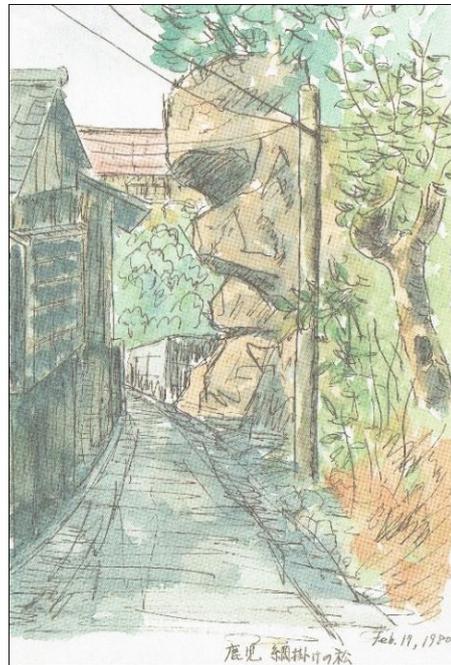
神社から西へ延びる小径があり、下の道に通じる。この小径の西端に、チャートの大岩がある。この辺りは、先人の著作から引用する。

この付近の田圃では、少し掘ればハイガイなどの海の生物の化石が数多く発見される。もう昔の面影もないが、西の鼻には硬いチャートの「鎧岩」があり、1973年、古老から、このあたりに「綱掛けの松」らしきものがあつたという話を聞いた。川添晃(2008):土佐日記スケッチの旅

本会会報第54号で述べたように、とさでん鉄道後免線の沿線は、高岡層の岩石が主である。この鹿児の小山でも、チャートの地層が目立つのであるが、その典型が大岩「鎧岩」である。

川添先輩の1973年の取材により、当地に船を括りつけていたと思われる松の木が存在が明らかになった。取材がいかに重要かがよく分かるエピソードである。

右図は、川添先輩の労作、土佐日記スケッチの旅の一場面である。同書には、1980年のスケッチと、それと同じ場所の2007年の写真が併記されており、今昔の変化を示す好著である。



鎧岩と綱掛けの松

絵 川添晃

川添晃(2008):土佐日記スケッチの旅, 1980年の記録より, 南の風社

9 TE12 文珠通

四国遍路 31 番札所五台山竹林寺の最寄り。竹林寺へは、当停留所から南へ 2 km、徒歩 30 分。

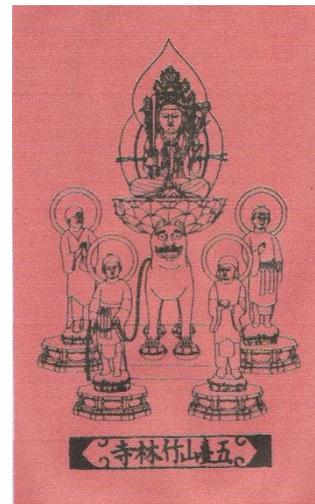
電停の名前は、竹林寺のご本尊文殊菩薩から。ただし、停留所名は文『珠』、ご本尊は文『殊』と、漢字が微妙に違う。右図は、本会報第 51 で報告済の、平成 26 年のご開帳の際のパフレット。

後免線の国分川橋梁以東はノーガード電停が連続していたが（西高須～長崎の 14 停留所連続。専用軌道上の葛島橋東詰、新規開業の県立美術館通および清和学園前を除く）、文珠通まで安全地帯の設置が終了し、市内電車の延長が可能になった。工事により文珠通電停は西に約 100m 移動、渡り線を設置して、市内電車の折り返しを実現している。

一方、知寄町 3 丁目東の踏切は、市内電車がひっきりなしに通り、開かずの踏切と化した。ラッシュ時は特にひどい。

五台山は斗賀野層に属し、その南縁に三宝山層と石灰岩が分布する。

(波田重熙(1993): 高知市の地質とその起源, 高知市文化財調査報告書による)



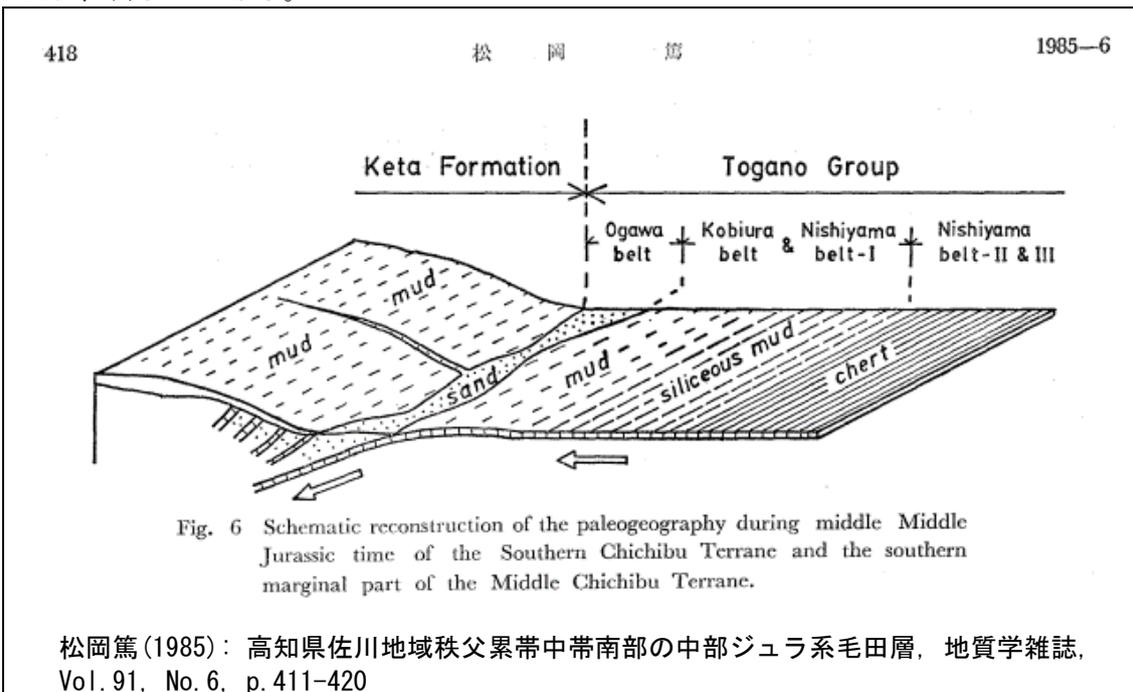
文殊菩薩

斗賀野層群 (トガノソウゲン) Togano group

関東山地から沖縄に至る秩父累帯南帯北半 (斗賀野亜帯) に連続的に分布するジュラ紀付加体。下位から珪質粘土岩層・チャート層・珪質泥岩層・粗粒碎屑岩層の地層 (チャート-碎屑岩シーケンス) が、スラストにより繰り返して覆瓦状構造を呈する。堆積年代は三畳～ジュラ紀後期。チャート層の最上位の層準や粗粒碎屑岩層の年代は、構造的上位から下位に向かって若くなる年代極性をもつ。模式地は高知県佐川地域。

[松岡篤, 地学団体研究会編 新版地学事典]

上記のように地層が繰り返して覆瓦状構造を示すのは、下図 (松岡篤(1985)) により、明らかである。

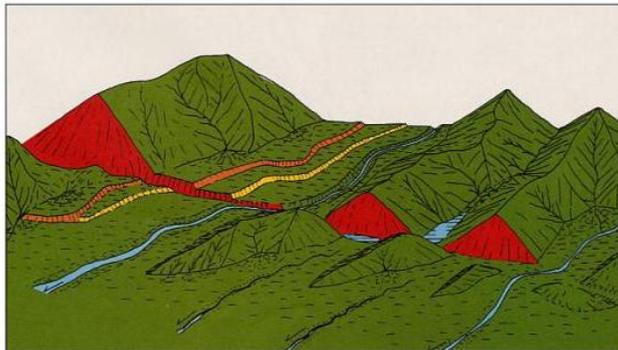


<p>三宝山層群（サンボウサンソウゲン） Sambosan Group</p> <p>関東山地から沖縄に至る秩父累帯南帯の南縁部を占め、三宝山亜帯を構成する。海山の衝突付加によって形成された付加体。泥質岩基質から産出する放射虫化石は、ジュラ紀後期～白亜紀前期を示す。ペルム～ジュラ紀後期のチャート、石炭・ペルム紀および三畳紀の石灰岩を含む。テチス海要素の三畳紀の二枚貝化石 Megalodon などが石灰岩ブロックから産出。模式地は高知県香美郡（現. 香南市）野市町三宝山地域。</p> <p style="text-align: right;">[松岡篤, 地学団体研究会編 新版地学事典]</p>
--

石灰岩は、秩父累帯・四万十累帯の境界である仏像構造線に沿って細長く分布する。この石灰岩は上述のように海山起源で、陸源の不純物を含まない。

高知県内では仏像構造線沿いの各地で観察できる。

- ① 須崎市桑田山・・・JR土讃線で斗賀野駅から南へ、トンネルを抜けると、採掘場が右窓に広がる。
- ② 土佐市天崎鍾乳洞トンネル・・・県道のトンネル掘削中に発見。保存措置がとられたが、鍾乳石は水没しており、見学不可。
- ③ 高知市荒倉トンネル・・・南口に分布。国道 56 号から観察できる。
- ④ 高知市五台山・・・31 番竹林寺から 32 番禅師峰寺に至る五台山遍路道が分布内を通過するので、機会があれば探してみよう。Megalodon が見つかるかもしれない。Megalodon と言っても、サメではなく、厚葉二枚貝の方。
- ⑤ 南国市稲生・・・石灰の一大鉱山。高知東部自動車道が鉱山の中を通過。



活断層のずれによってできた地形 「新編日本の活断層」(活断層研究会編, 1991年)より

五台山からの帰りは、南側に下って下田川左岸（川の流れて左側。ここでは南岸。）を見てみよう。以前は仏像構造線に沿って展開する三角末端面が見えたのだが、今では東部自動車道により改変されている。

<p>三角末端面→断層末端面（ダンソウマツタンメン）terminal facet</p> <p>断層崖が成長し、比高を増すにしたがって、崖面は開析されて急な尾根の列となるが、その尾根の末端に残存する三角形の断層崖面をいう。急斜面で、断層線上に連なって存在する。前面断層崖あるいは一般に三角末端面と呼ばれるものと同じ。</p> <p style="text-align: right;">[前田昇, 地学団体研究会編 新版地学事典]</p>

とさでん交通後免線 停留所コード一覧（南寿宏・私案）

TE01	デンテツターミナルビル前	TE09	西高須	TE17	鹿児島	TE25	小籠通
TE02	菜園場町	TE10	県立美術館通	TE18	舟戸	TE26	篠原
TE03	宝永町	TE11	高須	TE19	北浦	TE27	住吉通
TE04	知寄町一丁目	TE12	文珠通	TE20	領石通	TE28	東工業前
TE05	知寄町二丁目	TE13	介良通	TE21	清和学園前	TE29	後免西町
TE06	知寄町	TE14	新木	TE22	一条橋	TE30	後免中町
TE07	知寄町三丁目	TE15	東新木	TE23	明見橋	TE31	後免東町
TE08	葛島橋東詰	TE16	田辺島通	TE24	長崎	TE32	後免町